

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「物語のおもしろさを解説しよう」 教材名「注文の多い料理店」

2 単元の目標

反復などの表現の工夫に気付き、繰り返される言葉の働きを確かめられる。人物の受け止め方と、読む人が受ける印象を比べ、表現の工夫から物語の全体像やおもしろさを想像できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①反復などの表現の工夫に気付き、繰り返される言葉の働きを確かめている。（〔知識及び技能〕(1)ク）	①「読むこと」において、人物の受け止め方と、読む人が受ける印象を比べ、表現の工夫から物語の全体像やおもしろさを想像している。（C(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

案内の言葉を人物がどう受け止め、読み手はどう感じるかを比べ、物語のおもしろさを表現から考える。繰り返しや前後の対応をたどり、結末を知って読み返すと受け取り方がどう変わるかを説明する。学習指導要領のC(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)クを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

人物の受け止め方と読み手の受け止め方を並べる。どの語句や前の場面を手がかりにしたかを示す。表現の引用は教師が原本から確認し、配付物に本文を転載しない。おおむね満足できる状況は、人物の受け止め方と、読む人が受ける印象を比べ、表現の工夫から物語の全体像やおもしろさを想像しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、おもしろかった所と不思議な言葉を記録する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○出来事の順と案内の言葉の繰り返しを整理する。	知①（語句や内容の整理）
	3 （本 時）	○人物と読み手の受け取り方を比べ、表現の効果を説明する。	思①（発言・学習記録）
	4	○結末を知って読み返し、前の言葉との対応を確かめる。	学習状況を見て支援する。
	5	○表現に着目した解説文を書き、根拠と効果について書いた文を確かめ合う。	学習状況を見て支援する。
第3次	6	○解説を交流し、表現に注目して読む方法を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (3/6)

(1) 本時の目標

人物の受け止め方と、読む人が受ける印象を比べ、表現の工夫から物語の全体像やおもしろさを想像できる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「同じ案内の言葉を、登場人物、それから読む人はどう受け止めていますか。読み返すと意味が変わるのは、どんな表現のためですか」 【めあて】案内の言葉を人物がどう受け止め、読み手はどう感じるかを比べ、物語のおもしろさを表現から考える。 〈予想される児童の反応〉 ・人物は自分に都合よく受け取っている。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「同じ案内の言葉を、登場人物、それから読む人はどう受け止めていますか。読み返すと意味が変わるのは、どんな表現のためですか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・人物は自分に都合よく受け取っている。 ・読む人は前の場面から別の意味を考えられる。 ・繰り返しがあることによって次の展開を予想したくなる。	人物の受け止め方と読み手の受け止め方を並べる。どの語句や前の場面を手がかりにしたかを示す。表現の引用は教師が原本から確認し、配付物に本文を転載しない。 想定する難しさ：結末の意外さだけを説明する。人物への非難だけになり表現に戻らない。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 人物の受け止め方と、読む人が受ける印象を比べ、表現の工夫から物語の全体像やおもしろさを想像している。 (発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・繰り返しがあることによって次の展開を予想したくなる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「同じ案内の言葉を、登場人物、それから読む人はどう受け止めていますか。読み返すと意味が変わるのは、どんな表現のためですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

